

公益社団法人日本地球惑星科学連合
第9回学協会長会議議事録

開催日時 : 平成25年10月18日(金)15時00分から17時00分
開催場所 : 東京大学地震研究所1号館2階セミナー室(東京都文京区弥生1-1-1)
出席者 : [学協会] 大路樹生(日本古生物学会・議長)、西村進(日本温泉科学会)、植松光夫(日本海洋学会)、大湊隆雄(日本火山学会)、松浦執(形の科学会)、中田高(日本活断層学界)、藤谷徳之助(日本気象学会)、村上隆(日本鉱物科学会)、加藤照之(日本地震学会)、中田文雄(日本情報地質学会)、内田洋平(日本水文科学会)、谷誠(水文・水資源学会)、竹内望(日本雪氷学会)、福田洋一(日本測地学会)、金谷有剛(大気化学研究会)、伊藤慎(日本堆積学会)、小野昭(日本第四紀学会)、嶋田純(日本地下水学会)、豊田栄(日本地球化学会)、川幡穂高(地球環境史学会)、中村正人(地球電磁気・地球惑星圏学会)、武田一郎(日本地形学連合)、石渡明(日本地質学会)、森田喬(日本地図学会)、須貝俊彦(日本地理学会)、西脇保幸(日本地理教育学会)、玉川英則(地理情報システム学会)、野上道男(東京地学協会)、島田周平(東北地理学会)、溝口勝(土壌物理学会)、山田裕久(日本粘土学会)、石郷岡康史(日本農業気象学会)、三ヶ田均(物理探査学会)、楊宗興(日本陸水学会)、山口靖(日本リモートセンシング学会)、田近英一(日本惑星科学会)[学術会議] 永原裕子、大久保修平[連合] 津田敏隆、浜野洋三、(川幡穂高、中村正人)

議事内容 :

議事に先立ち大路樹生日本古生物学会会長より、6月30日の日本古生物学会評議会において間嶋隆一前会長より日本古生物学会会長を引き継ぎ、それに伴って本学協会長会議議長も引き継いだ旨説明があった。

1. 前回議事録確認

前回国議議事録を確認した。

2. 日本地球惑星科学連合活動報告

(1) 理事会に関する報告(津田会長)

10月11日(金)に開催された日本地球惑星科学連合理事会に関する報告があった。理事会で挙げた以下の報告および審議事項を報告した。

・9月に5名の新入正会員があり、これを承認した。全会員数は9月末現在で8479名となった。

- ・環境災害対応委員会より、学術会議からの提言に基づき災害時の対応や平常時からの組織作りに関して調査している旨報告があった。
- ・固体地球セクションの下部委員会として「地球内部科学小委員会」を設置した。
- ・学生優秀発表賞のシステムを整備中であるという報告があった。
- ・日本地質学会より米国地質学会 GSA の 2015 年大会を連合大会と共同開催または同時開催できないかという打診を受けた旨報告があった。連合としては前向きに検討するとした。日本地質学会石渡会明会長より詳細について説明があった。
- ・日本陸水学会より、経済産業省廃炉・汚染水対策チーム宛に福島第一原発における凍土遮水壁設置にかかわる意見書を提出したという報告を受けた。連合としては連合大会のユニオンセッションとして提案してもらい、議論を深めることを進めたいとした。日本陸水学会楊宗興幹事長より詳細について説明があった。

(2) 連合大会準備状況報告（津田会長、浜野洋三大会運営委員会委員長）資料 P. 4-17

2014 年連合大会の準備状況について以下の報告があった。

現在はセッション募集中であり、順調に受け付けてはいるが、各学協会の皆様にも積極的なセッション提案をお願いしたい。尚、第 8 回プラズマ宇宙物理 3 学会合同セッションの提案を受け付けた。

会場の概要ならびに展示ブースの概要について説明があった。

(3) 25 周年記念事業の実施計画（津田会長）資料 P. 18-19

連合大会は合同大会から数えて 25 周年、連合大会では 10 周年を迎えることを記念し、25 周年記念事業を準備している旨報告があった。資金を設置し、3 年かけて事業を行う。2014 年大会では JpGU フェローの表彰もあわせて式典を開催する。2015 年大会では国際式典を開催する。

(4) JpGU ジャーナルの進捗状況報告（川幡副会長）資料 P. 20-23

ジャーナルの進捗状況に関して報告があった。

科学研究費補助金（研究成果公開促進費）が採択され、出版準備は順調に進んでいる。7 月 10 日付をもって Springer 社と正式に契約をした。10 月中に投稿開始となる予定である。編集委員等の委嘱を進めている。原稿依頼も進んでおり、セッション・コンビーナーから推薦された方々に依頼メールを送信済みで、投稿承諾の返事も順次来ている。2014 年大会での特別国際セッションを募集中である。講演内容を当ジャーナルへ投稿することを条件として、旅費を援助するものである。また本年度は国際シンポジウムを募集中である。

発表時の補助資料を掲載・ダウンロードできる機能をもった連合大会アプリを準備中である。

また、関連学会のジャーナルの進捗状況として、EPS も順調に準備中であること、陸水系 7 学会が計画中のレター誌にオブザーバーを派遣したことも報告があった。

(5) JpGU フェロー制度創設に関する報告（中村副会長）資料 P. 24-29

JpGU フェロー制度の創設に関する報告があった。10 月 11 日の理事会で規則が承認された。

(6) 次期代議員選挙に関する報告（津田会長）資料 P. 30

連合の次期代議員選挙に関する報告があった。現在代議員選挙の投票受付中である。10 月 25 日に締切となるが、投票率が低い状態が続いている。各学協会でも投票の呼びかけをお願いしたい。

(7) 夢ロードマップ改訂の件（中村副会長）資料 P. 31-56

夢ロードマップの改訂を進めている旨報告があった。東北地方太平洋沖地震を踏まえることと日本学術会議の大型研究プランとの整合性ということに重点を置いてセクション毎に改訂している。12 月末に日本学術会議へ提出する予定である。

3. 日本学術会議の近況報告（日本学術会議 永原委員）資料 P. 57

日本学術会議の近況について報告があった。日本学術会議地球惑星科学委員会は、以下の三点の重要課題に取り組んでいる。

(1) 地球惑星科学委員会提言

東北地方太平洋沖地震および福島第一原発事故による放射性物質拡散問題について提言作りを進めている。現在は最終的な取りまとめの段階である。

(2) 大型研究マスタープラン

本年 2 月に大型研究マスタープランの提案が公募された。6 月のとりとめ、9 月のヒアリングを経て、現在とりまとめ中である。来年前半に結果が公表される予定である。地球惑星科学分野からは全体で 16 件の提案があった。

(3) 大学教育参照基準づくり

中教審の依頼に応じて大学教育参照基準を作成中である。夏期に連合ホームページ上にパブリックコメントを募集し、それによって改訂した。現在は最終的な取りまとめの段階であり、学術会議報告として公開予定である。

(4) またその他、学術をめぐるいくつかの重要な問題に関して学術会議が検討をしている旨報告があった。科学研究にかかわる不正行為、日本版 NIH という成長戦略に則った応用科学と基礎科学のファンディングシステムの結合、国際リニアコライダーに関する問題である。学術会議ではこれらに対し会長談話あるいは分科会による検討などをおこなっている。

4. 学協会における法人化の動向について(日本鉱物科学会 村上隆会長)

緊急動議として、学協会が一般社団法人化、あるいは公益社団法人化することによるメリットやデメリットに関して情報提供を募った。積極的な情報交換が行われた。

財務面では法人化することにより変化が大きく、実務も作業が増え、また維持費も増える。会計システムの違いが大きい。運営面でも規則の整備等変化が大きい。事務作業も増える。メリットとしては、対外的な信頼性が上がる事が挙げられる。

以上